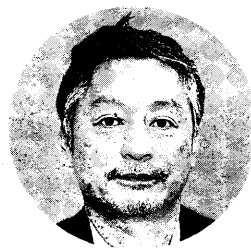


負の連鎖 法をゆがめ挙行



島田 雅彦

しまだ・まさひこ＝作家
1961年東京都生まれ。東京外語大ロシア語学科卒。在学中に『優しいサヨクのための嬉遊曲』でデビュー。主な作品に『君が異端だった頃』。法政大国際文化学部教授。

今春出版した小説『パンとサーカス』で、ロシア製ドローンを使用した政権中枢へのテロリズムを描いた。爆薬を積んだドローン攻撃は成功率が高い。戦争やテロの主流になっている現状を踏まえたのだが、安倍晋三元首相の国葬前、私が教壇に立つ法政大経由で国から「ドローンを所持していたら自主申告を」という通知が来た。キャンペーンは会場の日本武道館近くにある。

安倍氏の銃撃事件後、政府は治安強化を図っているが、警戒、監視すべきは政権中枢に深く食い込んだ「カルト教団」の方であろう。世界平和統一家庭連合(旧統一教会)は選挙や政策決定に強い影響力を持っていたことがうかがえる。

安倍、菅、岸田と続いた自民党政権は自浄能力が失われ、問題をつまむやにすることに全力を傾けている。これを機にうみを出し切り、悪政を改めるのが筋であるが、国葬を

安倍元首相の 国葬を考える

強行し、臭いものにふたができて思い込んでいる。

そもそも国葬は法的根拠が明白でない。過去に立法、行政、司法の三権の合意が必要との内閣法制局の解釈に沿って、佐藤栄作元首相の国葬が見送られた経緯があったにもかかわらず、内閣府設置法という法律を盾に閣議決定した。

安全保障法制の時も内閣法制局は政権に忖度したが、安倍政権時以来の負の連鎖は現在進行形で、法をゆがめてきた安倍氏を弔うのに、再び法をゆがめている。

岸田文雄首相は国葬を行う理由として、安倍氏の功績を挙げたが、最長在任記録の間に民主主義を破壊した罪の方が目立つ。森友学園など「モリカケ桜問題」の疑惑に対し、国会で虚偽答弁を重ね、公文書を改ざん、破棄し、公金を乱費した。経済と外交にも多くの疑問符が付く。武道館で「美しい国 日本」

「バイ・マイ・アベノミクス」など功績を強調する映像が流れたが、国内総生産(GDP)は低迷。民間の所得、年金は下落し、失業率や倒産、自己破産などの状況は深刻だ。ロシアとの領土交渉に失敗し、ばらまき外交に終始して米国から兵器を爆買した。

政権の尻拭いの論功行實で人事面の優遇を図ってもらった官僚、利益誘導してもらい、大いに潤った企業、安倍氏を擁護してリベラル攻撃で小銭を稼いだ一部文化人らにとって、安倍氏は功労者と映るだろう